

### 連会 木時 定時 需給安定化が重点課題 5周年式典を11月開催

NPO法人全国木材資源リサイクル協会連合会（彦坂武功理事長）の通常総会、第5回時局講演会が3月18日、朝日生命大手町ビルで行われた。木くずチップの需要高騰や昨年6月の改正建築基準法により解体材が不足するなか、連合会は今

年3月にNPO法人設立5周年を迎えた。来年度はさらなる会員の拡充に加え、需給対策委員会などの積極的な活動による資材の安定確保、適正な供給体制の確立を重点課題に据える。会員企業の貢献度をCO<sub>2</sub>換算で定量化する試みやグリーン購入調達品の共同購買なども検討していく。また5周年行事として11月13日、明治記念館で記念式典を開催する。

のため努力していきいたい」と語った。また総会後に行われた時局講演会では、経産省の安藤晴彦リサイクル推進課長が「リサイクル産業の今後の展望について」、獨逸林業総合研究所の陣川雅樹林業工学研究領域チーム長が「リサイクル産業における林地残材活用の可能性について」を講演した。

また使用済み木質パレットは、一部で運賃別途で買い取りをアピールする業者が存在するなどこの情報も確認された。なお、協会員18施設の2月度の燃料チップの取扱量は3万4434トンで、対前年同月比35.49%の増加。前月比でも2400トン余り増えている。製品チップは同1万3370トンで、前年同月比では逆に8007トン減だった。

### 東海木リ協 在庫は対前年比大幅減 出荷量は増加基調続く

東海木材資源リサイクル協会（山口昭彦会長）は3月21日、第241回実務連絡会を名古屋市のフルハシ工業の営業本部会議室で開催した。会員各施設の2月度の入出荷・在庫状況を確認するとともに、木質燃料チップや製品チップの需給動向などについて意見を交換した。

設の相次ぐ稼働で、品薄感が一層高まる燃料チップは、各ユーザーの買取価格の上昇傾向が強まるとの観測が確認された。製紙原料チップも、古材集荷の停滞から、価格の上昇が見られる一方、一円高による輸入材価格の低下も加味して判断し

近畿木材資源リサイクル協会（鷹野賢次郎会長）は3月18日、大阪市内のホテルで実務連絡会を開催した。冒頭、協会に所属する業者施設の木くずの月間取り扱ひ量が報告された。年度末ということで取り扱ひ量が若干回復傾向にあるものの、やはり厳しい状況は変わらないとの声も上がった。

2月末時点の燃料チップの在庫は32673トンで、前年同月の2割に満たない水準。同じく製品チップ341トンで同約2割減。原材料は46336トンで前年同月の3割程度に止まっている。総体的に需要量の大きさに対し、供給が後追いつく形となっている。

総会に先立ち2月8日には、経済産業省、環境省、農林水産省の担当者、ユーザーに呼びかけ、需給問題検討会を開催。需給が混乱する現状について関係者に理解を求めた。

冒頭、3月18日に開催されたNPO法人全国木材資源リサイクル協会連合会2008年度通常総会の状況が報告された後、新たな木質資源として期待が高まる林地残材の利用の可能性について意見交換があった。

近畿木材資源リサイクル協会（鷹野賢次郎会長）は3月18日、大阪市内のホテルで実務連絡会を開催した。冒頭、協会に所属する業者施設の木くずの月間取り扱ひ量が報告された。年度末ということで取り扱ひ量が若干回復傾向にあるものの、やはり厳しい状況は変わらないとの声も上がった。

大阪府の木くずユーザーが破砕機を導入するなど、中間処理施設を稼働させたことが議題に上った。施設は消費エネルギーを100%補うことを目指してバイオマス利用エネルギー供給施設を設



総会の様子

林地残材は、潜在的な埋蔵量が見込まれる一方、山間地からの搬出に要するコストが課題となっており、出席した会員からは「従来の古材チップとは異なる価格体系で取り引きしていくことになるのでは」「活用に当たって、公的な補助がどこまで支出されるのか」「バイオマスになる」などの意見が出された。

大型バイオマス発電施設を設

置しており、近畿圏内の提携業者から木くず原料を受け入れて燃料に使用している。だが建築基準法改正などの影響で、木くずチップ原料が不足している状況を受け、独自に木くずの集荷を開始。木くずチップ生産業者の一部の顧客が流れるなどの動きが出ている。会合では、今後、協会としての取り組みについて話し合いがなされた。